

11月26日・27日 東北ブロック「保護司のための SST 研修」

会 場 ホテルレオパレス仙台

講 師 片柳 光昭氏 (SST 普及協会認定講師)

渡部 裕一氏 大和田 雅子氏 三浦 敬二郎氏

参加者 27名 (青森4名・盛岡4名・仙台4名・秋田5名・山形4名・福島6名)

【第1日目 午後1時から17時まで】

片柳講師による SST についての講義から始まりました。コミュニケーションは、社会的技能 (スキル) に加えて、「認知 (物事の考え方、とらえ方)」能力も欠かせません。SST では、認知が適切に働くようトレーニングしていきます。支援者は、対象者は何ができていて何ができていないのかをよく見極め、対象者それぞれの目標を設定することで SST を効果的に進めることができるとの説明がありました。



SST を取り入れた面接を体験します。

渡部講師と三浦講師によるデモンストレーションを見学した後に3人が1グループになって実際にやってみます。練習課題は、「対象者が応募したい仕事先に電話をする」です。用意されたシナリオに添って進めます。

全員が基本訓練モデルを体験して、練習の順序をしっかり覚えていきます。

正のフィードバック (できているところを伝える) ことについて、参加者から「ほめるところが何もいない人いる。」という意見が出たところ、自分にほめるところを見つける力がないと自覚して、「ほめる力」をつけるためにも練習が必要であるとのアドバイスがありました。



【第 2 日目 午前 9 時から午後 4 時まで】



SST 研修では、まずはウォーミングアップをして緊張をほぐすことから始まります。

3 人が一組になって、3 人の共通項を探し、その数の多さを競うゲームに盛り上がりました。

昨日の復習をした後にシナリオを用いたロールプレイの演習です。講師のデモンストレーション（よいモデル・よくないモデル）を参考にして、3 人で保護司・対象者・観察者の役になり、役割を交替しながら繰り返し練習しました。



コインマップを体験した後、問題解決技能訓練を行いました。問題解決法は、発生した問題に対して、どのような解決方法がその人にとって最も妥当なのか検討し、その人が自分で選んで行けるようにする支援方法する手法です（配付資料より）。演習の設定は、担当している少年の母親（父親）から「最近、本人との間で喧嘩が多くなり困っている。話を聞いてもらえないか。」との連絡があり、本人も交えて母親（父親）とで話し合いをもつことになったという場面です。参加者は、保護司、少年、母親、父親の 4 人の役割を熱演し、少年役の参加者の声に耳を傾けていました。

以上、参加者 27 名全員が積極的に演習に取り組み、全研修（10 時間）を受講して終了しました。